



人由来の試料・情報を用いる研究に関する情報公開

アステラスでは、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（以下、倫理指針といいます）および「個人情報の保護に関する法律」（以下、法律といいます）を遵守し、人由来の試料・情報（以下、試料・情報といいます）を用いて研究を行っております。

研究に試料・情報を用いる場合は、倫理指針や法律に則り、研究対象者の方々から適切に同意を取得することを原則としていますが、場合によっては適切な同意を取得することができないことがあります。このような場合は、倫理指針や法律に則り、これらの試料・情報を研究に使用することを公開する必要がありますので、これらの試料・情報を用いた研究の情報を以下に公開しております。

アステラスでは研究対象者の方々が特定できないようにされた試料・情報を入手し研究を行っております。研究利用中止のご希望やお問い合わせは、概要に記載の連絡先へご相談ください。

また、この資料に含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。開発中の化合物に関する情報は、その化合物の確立された安全性や有効性を示唆するものではなく、開発中の化合物が承認を受けることや、開発中の用途で上市されることを保証するものではありません。

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針で公開の求められる研究
 (試料・情報等を入手して行なう研究)

承認番号	000402
研究の対象となる方	2005年4月以降に国立がん研究センター(NCC)東病院で内視鏡下生検、内視鏡切除での治療または手術での治療を受けた消化器癌の患者のうち、NCC 包括的同意がえられている方
研究期間	2022年04月13日-2027年03月28日
利用を開始する日	2023年12月15日
利用目的・方法	<p>本研究では難治性がんにおいて課題となるがんの微小環境に関する新たな知見の獲得するための研究手法として空間的なマルチオミックス解析方法の構築を目的としています。取得された患者さんのFFPE組織から取得した組織切片をmultiplex IHC(多重免疫染色)および空間トランスクリプトーム解析で評価に利用します。得られた結果を統合的に解析し、難治性に寄与するがん微小環境を構成する細胞の位置ごとの細胞の特徴を捉えることを目指しています。</p> <p>本研究はNCCでの下記研究の一部分として実施します。</p> <p>研究課題名：シングルセル解析を用いた消化管癌における腫瘍内不均一性の解明（研究責任者：大橋紹宏）</p>
その他情報	研究概要

承認番号	000442
研究の対象となる方	「ヒト疾患特異的iPS細胞の作成とそれを用いた疾患解析に関する研究」（京都大学R0091号）に参加されたMDS患者さん
研究期間	機関の長の許可日～2026年11月30日
利用を開始する日	機関の長の許可日より1日後
利用目的・方法	<p>MDS患者さんより作製したiPS細胞を用いて、MDSの細胞の特性や薬剤への反応性を調べることにより、新しい治療薬の開発につなげることを目的とします。</p> <p>MDS患者さんから作製したMDS-iPS細胞を造血幹細胞に分化させ、赤血球などへの分化能や遺伝子発現について評価をします。また、患者さんのiPS細胞から作製した血液細胞を用いて薬剤に対する反応性の評価を行います。</p>
その他情報	研究概要

承認番号	000454
研究の対象となる方	2014 年 8 月以降に京都大学医学部附属病院消化器内科を受診した炎症性腸疾患の患者さんで、以下のいずれかの説明を受け、文書による同意が得られている患者さん ・生体試料の保管と将来の研究利用についての説明文書 ・承認番号：R1004、課題名：自己免疫疾患における抗原の同定
研究期間	2024 年 11 月 24 日～2026 年 7 月 31 日
利用を開始する日	機関の長の許可日より 1 日後
利用目的・方法	本研究では、炎症性腸疾患患者さんなどから採取された腸管組織・血液を用いて組織学的な解析、遺伝子発現の網羅的解析をおこない、炎症性腸疾患ではない方の結果と比較することで、病態形成メカニズムを明らかにすることを目的にしています。
その他情報	研究概要

承認番号	000462
研究の対象となる方	2014 年に京都大学医学部付属病院にて医療用 iPS 細胞の構築のための HLA ホモ接合体ドナーとして採血をされた方
研究期間	2024/11/25～2026 年 12 月 31 日
利用を開始する日	2024 年 1 2 月ごろ
利用目的・方法	iPS 細胞由来軟骨様組織による椎間板変性に対する治療法の開発における製造プロセス・品質管理方法の最適化研究の実施に向けて、iPS 細胞から軟骨様組織を作製する方法と、作った iPS 細胞由来軟骨様組織の品質を評価する方法について、大阪大学からアステラスへ技術移管を行います。
その他情報	研究概要

承認番号	000465
研究の対象となる方	「ナショナルセンター・バイオバンクネットワークを基盤とする疾患別情報統合データベースを活用した産学官連携による創薬開発研究」に参加された方。 ナショナルセンター・バイオバンクネットワーク（NCBN）傘下のバイオバンクへの試料情報提供を同意された方、および健常ボランティアの方で NCBN 傘下のバイオバンクにご参加いただき試料をご提供いただいた方。
研究期間	2025 年 1 月 22 日～2028 年 3 月 31 日
利用を開始する日	2025 年 2 月 20 日
利用目的・方法	本研究では、自己免疫疾患の患者さんおよび健常ボランティアの方から得た情報および採取された血液を用いて、病態形成メカニズムを明らかにし、開発候補薬物の有効性を検証することを目的にしています。
その他情報	研究概要

承認番号	000467
研究の対象となる方	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年2月-2024年9月にNCNPバイオバンクに試料・情報を提供いただいた方 ・側頭葉てんかんと診断され、かつ既存てんかん薬が著効しなかった方
研究期間	2025年2月6日～2027年3月31日
利用を開始する日	2025年6月頃
利用目的・方法	本研究では側頭葉てんかん患者の脳組織を使って、病気の原因や仕組みを詳しく調べ、開発中の薬が実際に効果があるのかを確かめることを目的としています。
その他情報	研究概要

承認番号	000468
研究の対象となる方	国が指定する「指定難病」のみならず、発病の要因が明らかでなく治療方法が確立しておらず、希少で長期の療養を必要とする病気の方、診断がついておらず全ゲノム解析等を実施することが適切だと判断される方やその血縁者（ご両親や兄弟、お子さんなど）の方
研究期間	2020年度～2027年3月31日
利用を開始する日	2025年4月1日
利用目的・方法	本研究は、国立健康危機管理研究機構が実施中の研究「難病のゲノム医療推進に向けた全ゲノム解析基盤に関する先行的研究開発」〈研究責任者：國土典宏〉において構築中の、難病患者さんに関するデータベースについて、そのデータベースやデータ解析環境にセキュリティ上の安全措置を講じた上でアクセスし、システムを検証、使用感や改善点を開発者にフィードバックすることで、将来の治療法開発に有用なシステムの構築に貢献します。本研究は前述の研究の一部として実施します。
その他情報	研究概要

承認番号	000478
研究の対象となる方	AMED 革新的がん医療実用化研究事業 領域 1 「がんの本態解明に関する研究」における患者還元 A 班（令和 3, 4 年度）A-2 班（令和 5 年度～）の 3 つの研究班（がん研有明（上野班）、静岡がんセンター（浦上班）、国立がん研究センター（令和 3 年度山本班、令和 4 年度以降角南班））の研究代表者が所属する研究施設にて取得された症例の方
研究期間	2022 年 3 月 17 日～2027 年 3 月 16 日
利用を開始する日	2025 年 10 月 1 日
利用目的・方法	全ゲノム情報から患者さんのがん細胞の全ゲノム情報を解析し、その結果を実際のがんの治療に活かすための研究を進めています。現在、AMED「革新的がん医療実用化研究事業」の支援を受け、全ゲノム解析等の成果をより早期に患者さんに還元するための多機関共同研究が進んでいます。ゲノムデータ・臨床情報からより正確な診断や治療法の選択に結びつけていくために、がんの種類ごとに解析するだけではなく、さまざまな種類のがんのゲノムデータを統合して解析を行います。後天的なゲノム変異（体細胞変異）、臨床情報の一部（年代、性別、飲酒歴、喫煙歴等の基本的情報）をダウンロードや新たなアップロードが出来ない仕組みを備えたクラウド上のデスクトップ環境にて取り扱い、解析を行います。
その他情報	研究概要

承認番号	000484
研究の対象となる方	1980 年 1 月 1 日から、2028/10/23 の間に癌研病院またはがん研有明病院において、胃癌・乳癌・尿路上皮癌の標準的な治療を受けられた方
研究期間	2025/11/4～2028/10/23
利用を開始する日	2025 年 11 月 15 日
利用目的・方法	ASP2998 の抗腫瘍免疫効果および STING 経路活性化に関する作用機序が臨床効果にどのように関連するか検証することを目的としております。過去に胃癌・乳癌・尿路上皮癌の標準的な治療を受けられた患者さんのデータと腫瘍組織を使用させていただきます。この研究で用いる腫瘍組織は、診断時あるいは手術の際に採取した腫瘍組織の一部を用いるなど、診療において採取された組織を用います。研究のために新たに腫瘍組織を採取する必要はありません。
その他情報	研究概要